

Poster-5

2014-2013

Takashi Akiyama





ごあいさつ

秋山 孝

秋山孝ポスター美術館長岡・館長
多摩美術大学・教授

秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) は、開館5周年目になる新作ポスター集「Takashi Akiyama Poster-5」を発行することが出来た。

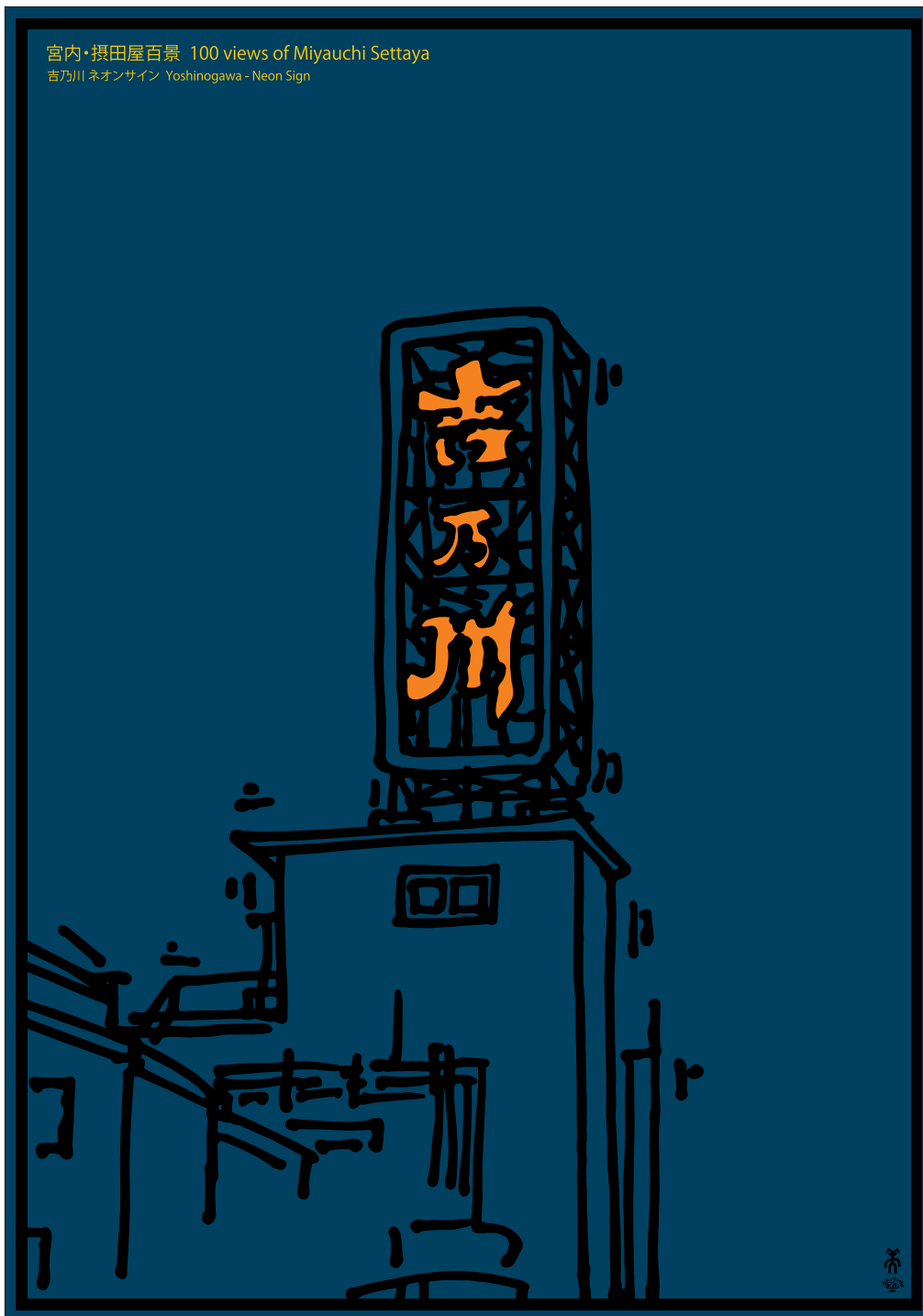
今年のポスター作品の特徴の1つは「サラエボ100プロジェクト("Sarajevo100" project / ULUPUBIH)」の組織委員会より「Views-Sarajevo 1914-2014」というテーマによるポスター制作の依頼があったことだ。日本人は、サラエボと言えば歴史や地理から見ても縁遠い。しかし、ポスターアーティストはそんなわけにはいかない。サラエボは、ボスニア・ヘルツェゴビナの首都である。近年では1992年4月1日から1995年まで続いたボスニア・ヘルツェゴビナ紛争で知られている。ぼくが選んだテーマは、1914年にラテン橋でオーストリア＝ハンガリー帝国大公夫妻が暗殺され、第1次世界大戦のきっかけとなったサラエボ事件を取り上げた。そして、犯人の民族主義者プリンツィプの逮捕シーンを描いた。

2つ目は、2013年6月9日に北京・清華大学美術学院で行われた「K11 campus Design Carnival 2013-Design Education High-end Forum」の教育イベントのためのポスターだ。精華大学美術学院の馬教授の挨拶から始まり、中国、韓国、日本の、東アジアのデザイン教育に関わる5名の教授によるプレゼンテーションの後、質疑応答が行なわれた。ぼくは、「デザインと芸術の力」と題し、国際的な活動となった「デザイナーが何を出来るか」というキーワードの地震支援プロジェクト教育の広がり、ポスターの力について講義をした。イベントポスターのデザインは、一艘の船の天空に自在に飛翔する神兽・霊獣である龍の出現をテーマとし、祝いの意味を込めた。

3つ目には、「ポーランドポスターの巨匠 in 長岡」が挙げられる。秋山孝ポスター美術館長岡の企画展の中には、ポスター研究、アーカイブ、教育、これが必ず組み込まれている。今回はポーランドポスターの中で、演劇、映画、美術、サーカスなどの催事の告知ポスターをとりあげた。また人間の内面性を刺激する表現を全面に打ち出したもので、悲しみ、苦しみ、裏切り、嫉妬、嘲り、風刺などの深層心理に入り込む文学的な内容で、資本主義国の消費社会を促すためのポスターでない。しかしこれらのポスターに驚嘆の眼を見張ったのは、資本主義国のデザイナーたちであった。より芸術的な表現の深さを感じ取れるポスターだったのである。ポスターのアイデアは、カフカの「変身」をイメージする内容を描いた。

最後は2013年4月20日から5月25日の間、秋山孝ポスター美術館長岡で開催された「秋山孝が選んだ30の金言 高田清太郎の建築デザイン哲学展」だ。ぼくが高田清太郎氏のブログから30の金言を選んだ。その金言からポスターを制作し、金言と図像のポスターの展示となった。一般的には建築家の展示は模型であったり図面であったりするが、今回の展示会は「高田清太郎の建築デザイン哲学」を導きだすようにしているため、建築物の写真などがさほど多くはない。それよりも、言葉と響き合うようにするため、自然や原点となる写真を選んだ。その選び方は、1.建築、2.建築と雪、3.人生、となっている。ポスターデザインは、モーゼの十戒からアレンジし、天から降りてくるような金言のイメージを作り上げた。

上記にある特徴的な4点のポスター作品で分かるように、ポスターの力は計り知れないものがある。それは、1.国際コミュニケーションのシンボルとなる図像である、2.文字だけではなく、人々の心の中に入り込む魅力的な色あるいは形のイラストレーションに力があることを知ってほしい。



[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 吉乃川 ネオンサイン
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2014
[Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- この作品も「宮内・摂田屋百景展」(2014/4/19-6/30)のために制作したものだ。吉乃川は戦国の上杉謙信が活躍した頃、天文17年創業で460年経った酒蔵だ。仕込水は敷地内の地下深くから湧き出る信濃川の伏流水で「天下甘露泉」と呼ばれている。そのため非常に優れた日本酒を作っている。ぼくが卒業した上組小学校は現在の吉乃川の敷地内にあった。闇に浮かぶ力強い吉乃川のネオンサインのロゴは心の豊かさのシンボルであり、街のプライドの輝きでもあった。今から60年前ごろにはネオンサインの上にサーチライトがあり、街中を照らしていた。

宮内・摂田屋百景 100 views of Miyauchi Settaya
吉乃川 常倉 Yoshinogawa - Jokura

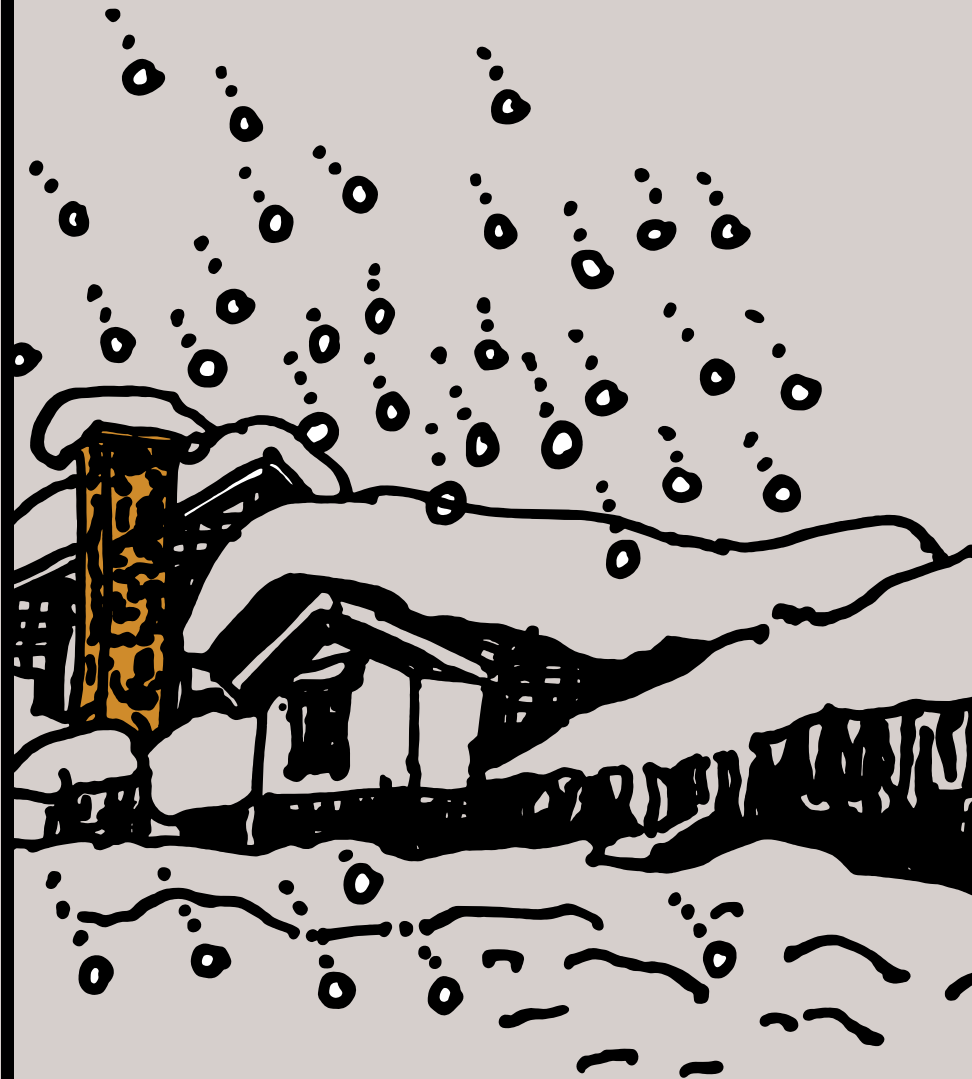


[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 吉乃川 常倉
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2014
[Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 吉乃川「常倉」は、1923(大正12)年に建築されたもので、フレンチトラストの構造を持つ鉄筋造だ。1階の柱を減らすため2階床組は吊るされている。そのため製品倉庫としての機能を満たしている。さらに中越地震で被災したが、耐震補強して働いている。ぼくは、小学生の時から通学路にある「常倉」を眺めながら学校に通った。春になると壁一面にツタが絡みそのミドリ色の輝く美しさを理解した。夏から秋にかけツタのグリーンの変化に気づいた。また、絵画ではけっして現すことのできない美的世界がそこにあった。冬にかけて枯れ葉になるプロセスから、植物のはかなさも知った。心に訴える「吉乃川常倉」佇まいだ。

100 views of Miyauchi Settaya / 2014.04.19sat - 06.30mon / Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka

宮内・摂田屋百景展



宮内・摂田屋百景 100 views of Miyauchi Settaya
越のむらさき Koshi no Murasaki



[Title] ----- 宮内・摂田屋百景展「越のむらさき」
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2014
[Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- ぼくの子供の時は、ヤマママ醤油と呼んでいた。ところが東京から久しぶりに帰省すると名前が「越のむらさき」となっていたが、今ではどちらも懐かしい。創業は1831(天保2)年から醤油造りという歴史を持っている。もちろん「越のむらさき」の味がぼくの醤油の基本になっている。母校の上組小学校からの帰りに吉乃川の酒のにおい、醤油の香ばしきの旧道を歩きながら土蔵の間を歩いて宮内駅前になった自宅(現在、秋山孝ポスター美術館長岡蔵)まで帰宅した。冬、しんしんと雪が積る日も、真夏の蝉の鳴き声とともにプールで泳ぐ日も「越のむらさき」の道しるべ地藏と竹駒船荷の前を歩いた。宮内・摂田屋百景のメイン地点だ。

Tama Art University 2014
Illustration Studies



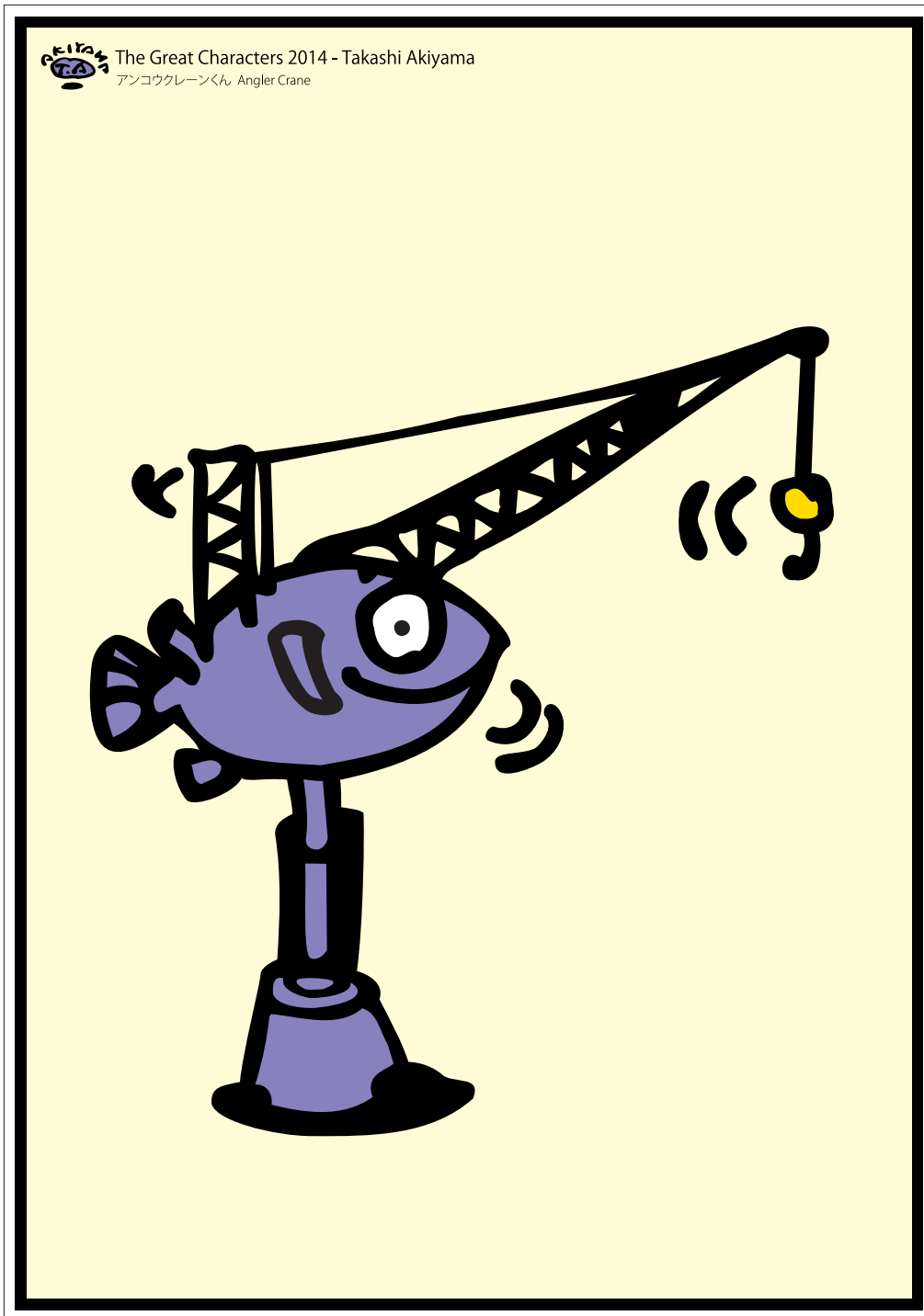
[Title] ----- 多摩美術大学大学院グラフィックデザイン領域
イラストレーションスタディーズ修了制作展2014
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2014
[Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
[Category] ----- Education

[Idea] ----- 多摩美術大学大学院の院生を指導してから14年目をむかえた。その成果を発表するための学外展で今回で16回目となる。近年は、青山にあるGallery5610で継続的に開催している。日程は、2014年3月2日から8日の間だ。初日は、イラストレーションスタディーズ・トークショー「模倣について考える」を企画し討論をした。表現を模索していくプロセスにおいて必ず通らなければならないテーマだからこそ、再確認と再認識することを目指した。今回の告知ポスターデザインは、レンブラントの「放蕩息子の帰宅」をイメージしイラストレーションを描いた。創作の旅は苦難の道だ。人生の儚さも理解するし、夢の中に落ち込むこともある。そして、孤独な一人旅であることは間違いない。



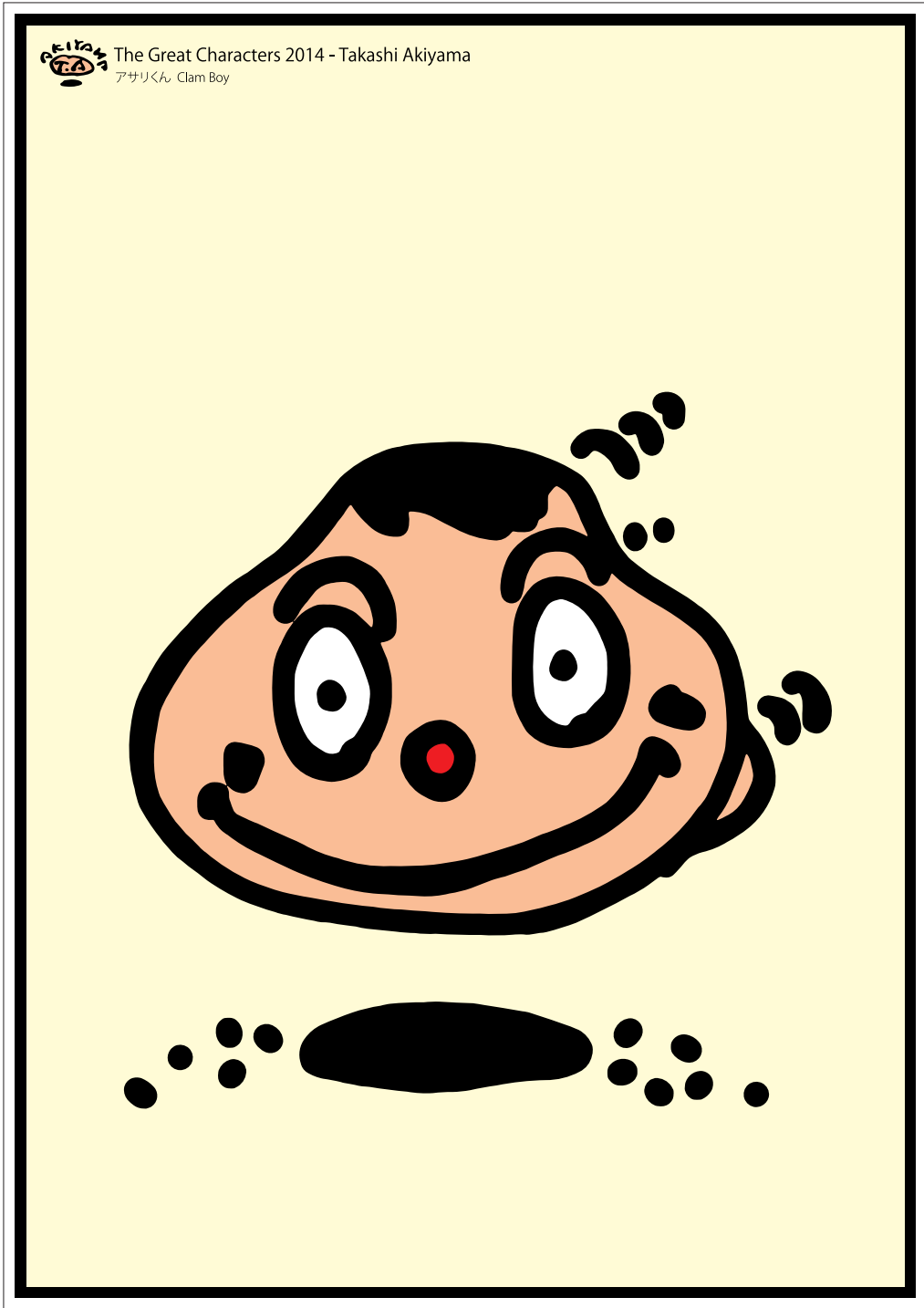
[Title] ----- Views-Sarajevo 1914 - 2014
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2014
 [Client] ----- "Sarajevo100" project
 [Category] ----- Social

[Idea] ----- 「サラエボ100プロジェクト("Sarajevo100" project/ULUPUBIH)」の組織委員会より「Views-Sarajevo 1914-2014」というテーマによるポスター制作の依頼があった。日本人は、サラエボと言えば歴史や地理から見ても縁遠い。しかし、ポスターアーティストは、そんなわけにはいかない。サラエボは、ボスニア・ヘルツェゴビナの首都である。近年では1992年4月1日から1995年まで続いたボスニア・ヘルツェゴビナ紛争で知られている。ぼくが選んだテーマは、1914年にラテン橋でオーストリア＝ハンガリー帝国大公夫妻が暗殺され、第1次世界大戦のきっかけとなったサラエボ事件を取り上げた。そして、犯人の民族主義者プリンツィプの逮捕シーンを描いた。



[Title] ----- The Great Characters 2014 - Takashi Akiyama
 アンコウクレーンくん
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2014
 [Client] ----- 財団法人船橋市公園協会
 [Category] ----- Culture

[Idea] ----- 1987年(昭和62年)に開設されたわんぱく王国が拡張整備され、1996年(平成8年)10月にアンデルセン公園はオープンした。その公園内に子ども美術館ゾーンがある。この美術館は、子どもたちが自由な発想で作る楽しさや喜び、童話の登場人物になって演じる経験を体験する施設、作家と子どもたちが一緒に制作体験をするワークショップなど、体験型美術館だ。その周辺に大地の広場にあるアンコウクレーンのキャラクター「アンコウクレーンくん」だ。アンコウクレーンは牧野圭一氏のデザインによる。



[Title] ----- The GreatCharacters 2014 - Takashi Akiyama アサリくん
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2014
[Client] ----- 財団法人船橋市公園協会
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- アサリくんのシンボルキャラクターは、1992年(平成4年)の春にデザインしたものだ。船橋の海辺に生息し、日常の中で親しまれている生物の代表的なアサリをモチーフにした。なかなかアサリからシンボルキャラクター化する作業は困難だったが、完成してみると味わい深いキャラクターとなった。今後の海浜公園(ベイパーク)は、自然に対する深い認識が要求され、しかもエコロジーというキーワードをふまえたコンセプトもこのキャラクターの裏に潜んでいる。



The Great Characters 2014 - Takashi Akiyama
トゥリーくん Tree Boy



[Title] ----- The Great Characters 2014 - Takashi Akiyama トゥリーくん
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2014
[Client] ----- 財団法人船橋市公園協会
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 財団法人船橋市公園協会のために、1993年(平成5年)1月に作ったシンボルキャラクターで、公園の象徴である樹木をモチーフにデザインした。わんぱく王国のシンボルキャラクター「わんぱく坊や」、海浜公園(ベイパーク)シンボルキャラクター「アサリくん」と財団法人船橋公園協会シンボルキャラクター「トゥリーくん」これらの一連は、デザインシステム的重要性の中で、統一されたCI(コーポレートアイデンティティ)に基づいたものだ。



[Title] ----- 宮内・摂田屋百景「旧 高田屋米店」
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2013
[Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 2014年4月19日から6月30日までの期間、秋山孝ポスター美術館長岡(APM)で開催された「宮内・摂田屋百景展」のために制作した。参加者は7名で約60点のポスター作品を展示し、宮内・摂田屋の魅力を再発見する試みである。教育から生まれ研究を経て、創作へと迫り着き展示するというAPMの理想とする展示発表だ。宮内・摂田屋には有形登録文化財となる蔵などがあると共に雪国独特な雁木で知られている。このポスター作品の「越後の米穀商高田屋」は宮内二丁目にあり歴史のある米屋さんとして知られている。2013年に改築する前の建物で、越後の米穀商としての趣があり美しい建物だった。ぼくの思い出のひとつであり、APMの向かいに位置していた。

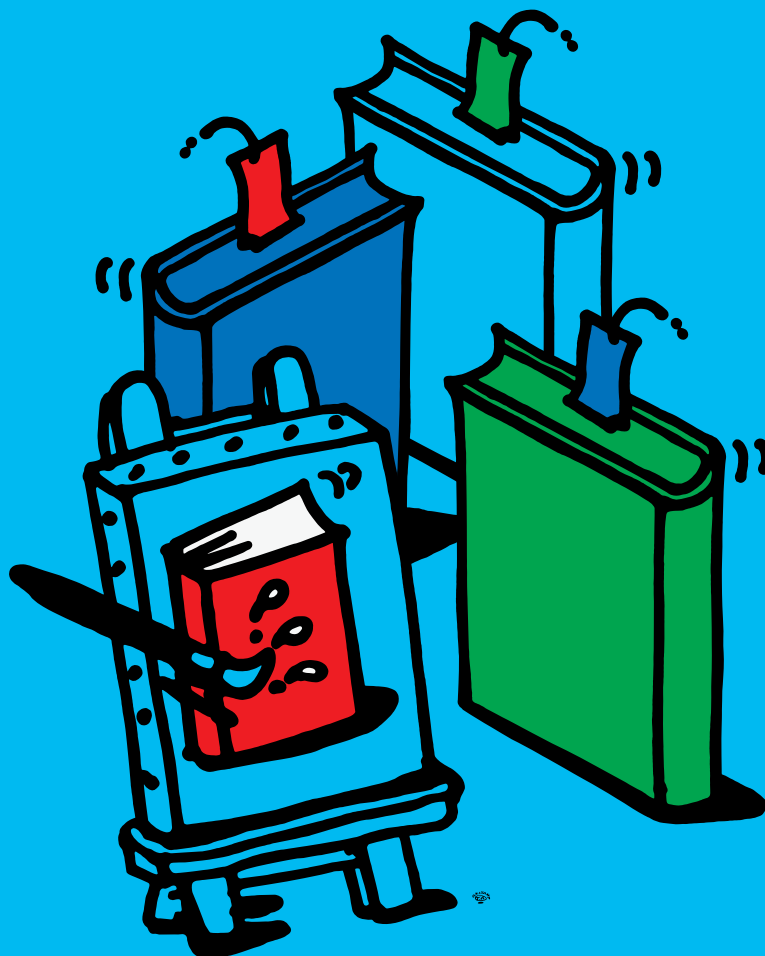
The 2nd Tokyo Book Jacket Illustration Competition 2013

第2回 主催：日本図書館設計家協会 東京装画賞実行委員会

東京装画賞2013

2013.10.12 sat. - 10.26 sat.

11:00-18:00 日曜・祝日休み 山脇ギャラリー



協賛：山脇美術専門学校 日清製紙（株）印刷センター 秋山孝博アート事務所 株式会社竹富 平和風業株式会社 ダイニチ株式会社 株式会社ママトト アンタリス・ジャパン株式会社 株式会社岩谷文庫閣 ターナー色彩株式会社 北越印刷製版株式会社

[Title] ----- 第2回 東京装画賞2013
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2013
[Client] ----- 日本図書館設計家協会 東京装画賞実行委員会
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 東京装画賞の第2回展が2013年10月12日から26日まで山脇ギャラリーで開催された。ブックジャケットのコンペティションである。1200点を越える応募があり、厳選する審査の結果230点が選ばれ受賞作を含め会場に展示された。課題図書は、芥川龍之介「蜘蛛の糸」太宰治「人間失格」カフカ「変身」ルイス・キャロル「不思議の国のアリス」など計6点で装画（イラストレーション）を中心としたジャケットデザイン制作するユニークな試みだ。ポスターデザインは、イーゼルに本を描いてたキャンバスと装画のない本が配置されている。そんなに大きくないブックジャケットのスペースに斬新で感動的なビジュアルメッセージ表現をする。創作者の能力が問われる魅力的な世界を表した。



Tama Art University Illustration Studies
5. Message Illustration Poster
 in Nagaoka
 2013.10.05^(sat) - 10.31^(thu)
 Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka

落印

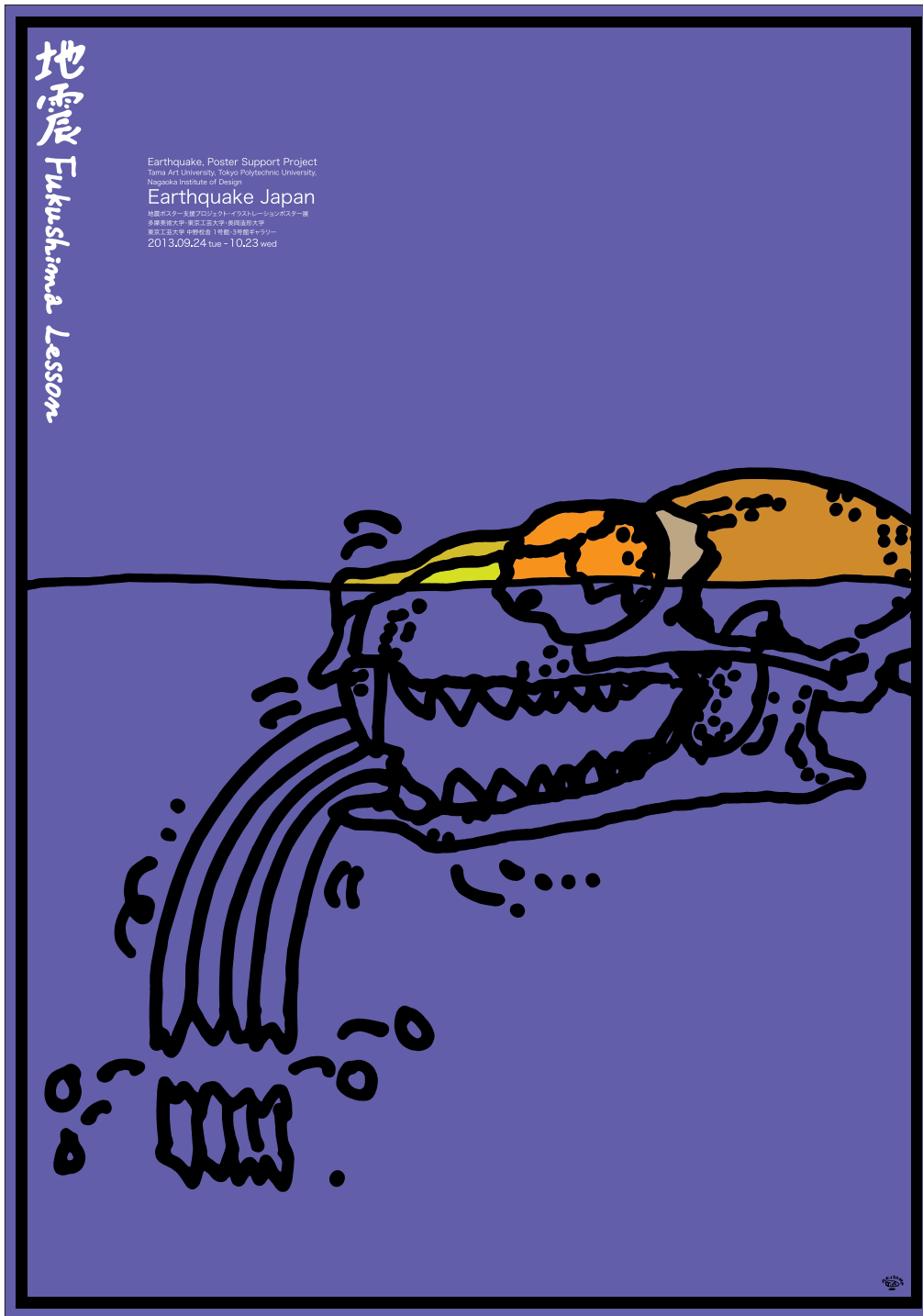
[Title] ----- 5. Message Illustration Poster in Nagaoka
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2013
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡(APM)のコンセプトに教育がある。それを実現するためにさまざまな企画をたてている。その一つが、多摩美術大学・大学院生の「メッセージ・イラストレーション・ポスター」だ。5回目の展覧会になる。継続は、かならず魅力的な発見がある。思考形成にはそれが不可欠だ。今回のポスターデザインは、海中の環境世界で生きるタコをモチーフにした。不思議な軟体動物のタコにも生命体としてのコミュニケーションやそこから出てくるメッセージがある。人間であるぼくたちは、その声を聞き取る能力が求められている。どんな内容なのだろうか。疑問を感じ、とても哲学的で神秘的興味としてそそられるのだ。



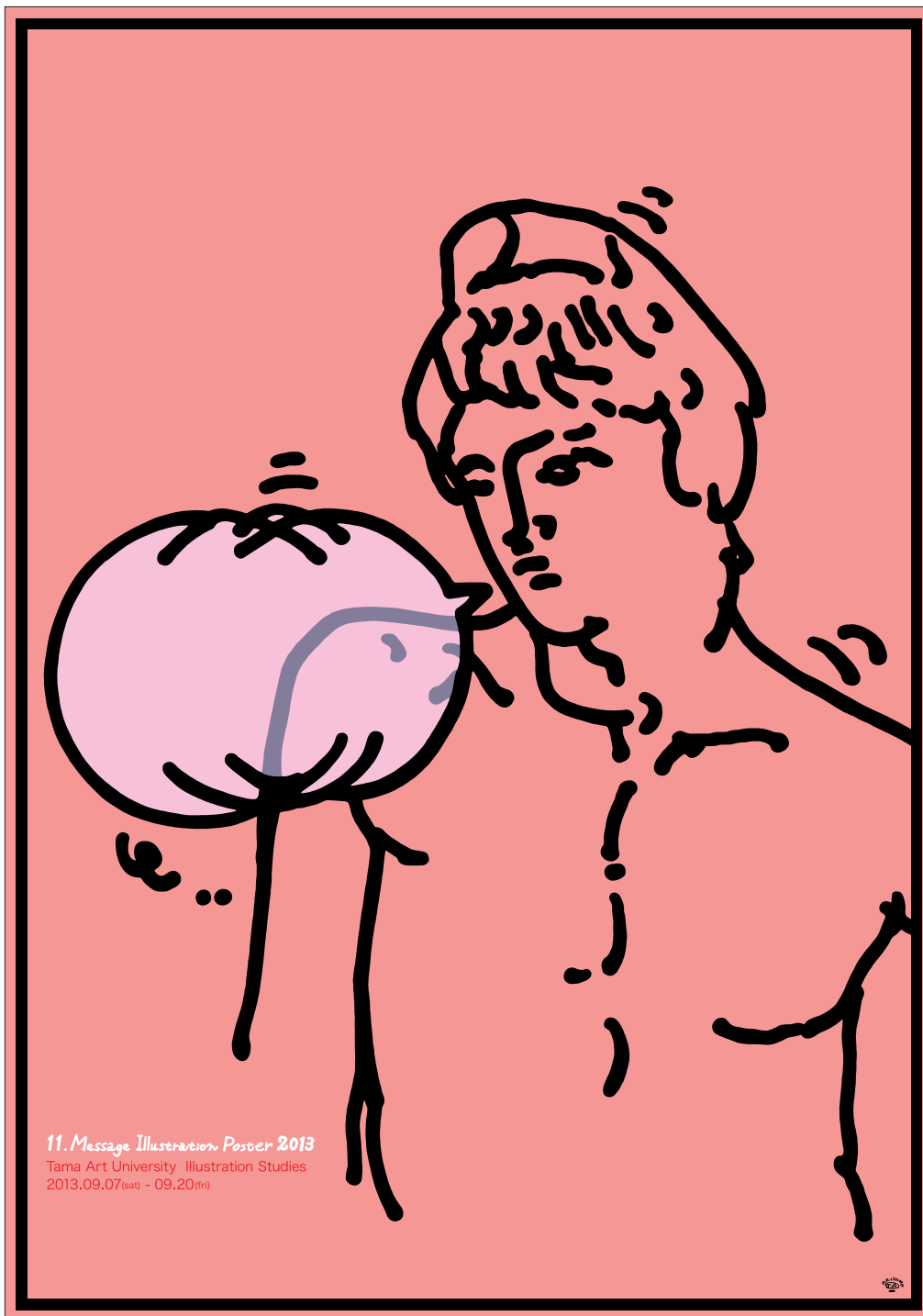
[Title] ----- 地震 Fukushima Lesson - Earthquake Japan
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2013
 [Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] ----- Social, Education

[Idea] ----- この作品は2点シリーズの1点である。もう1点の作品とは異なり、色とモチーフを変えて、類似するイメージの展開を図った。これもやはり、放射能汚染水の垂れ流し問題を取り上げた。悪魔の口から出てくる恐ろしさをビジュアル化した。地震ポスター支援プロジェクトは、今年で10年目を迎えた。継続的に展覧会をすることによって、災害支援においてデザイナーのできることは何かということから、ポスターの力を使い災害を忘れず記録することを目的にスタートした。



[Title] ----- 地震 Fukushima Lesson - Earthquake Japan
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2013
 [Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] ----- Social, Education

[Idea] ----- 地震ポスター支援プロジェクトは、今年で10年目を迎えた。継続的に展覧会をすることによって、災害支援においてデザイナーのできることは何かということから、ポスターの力を使い災害を忘れず記録することを目的にスタートした。その結果、地震の知識や問題点を理解することになり、継続は、このような解決困難な問題に対しては有効な方法だと実感している。地震の問題は1次災害、2次、3次、4次災害へと連鎖して起こるということがよくわかった。特に原発の問題は大きい。今回のポスターデザインの表現は、放射能汚染水の垂れ流し問題を取り上げた。悪魔の口から出てくる恐ろしさをビジュアル化した。



[Title] ----- 11. Message Illustration Poster 2013
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2013
 [Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- 「第11回メッセージ・イラストレーションポスター展」は、2013年9月7日から20日まで多摩美術大学デザイン棟ギャラリーで開催された。イラストレーションの醍醐味は、一枚の紙の中にある作者のメッセージをどう表現するかにある。表現は、個人の持っているさまざまな人生の中から、または鋭い感性からにじみ出てきたり、弾けるように飛び出してくる。そのメッセージは、人々の心を虜にする。学生たちは、厳しい表現のトレーニングで理解する。今回の告知ポスターデザインは、大理石で出来ていて美しく魅惑的な肉体を持っている像「トロイアの王子パリス(130頃)」がため息のような声で囁いている姿を描いた。ぼくは、その声を一度は聞いてみたいと思っている。

多摩美術大学イラストレーションスタディーズ15周年記念「15年を振り返る」スチューデント会議2013

15th Anniversary
Illustration Studies 1998-2013
Student Conference

Tama Art University Illustration Studies
2013.07.20(sat) pm2:00 - 4:30
Tama Art University Lecture Hall C



[Title] ----- 15th Anniversary, Illustration Studies 1998-2013,
Student Conference
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2013
[Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
[Category] ----- Education

[Idea] ----- 多摩美術大学グラフィックデザイン学科イラストレーションスタディーズは、1998年にスタートし、15周年を迎えた。それでスチューデント会議で15周年を記念して「15年を振り返る」というテーマでスチューデントコンファレンスを行なった。研究冊子「Illustration Studies」は、今回で61冊まで到達した。またそれを記念し、目録も発行した。第1部は大学院生のプレゼンテーションから始まり、第2部では15年間の研究成果やコンファレンスの歴史などを振り返り、今後の指針を確認した。このためのポスターデザインは、アーティストが歩きながら後ろを振り返るシーンを描いた。手には筆とキャンバスを持ち、創作と研究を象徴化した。



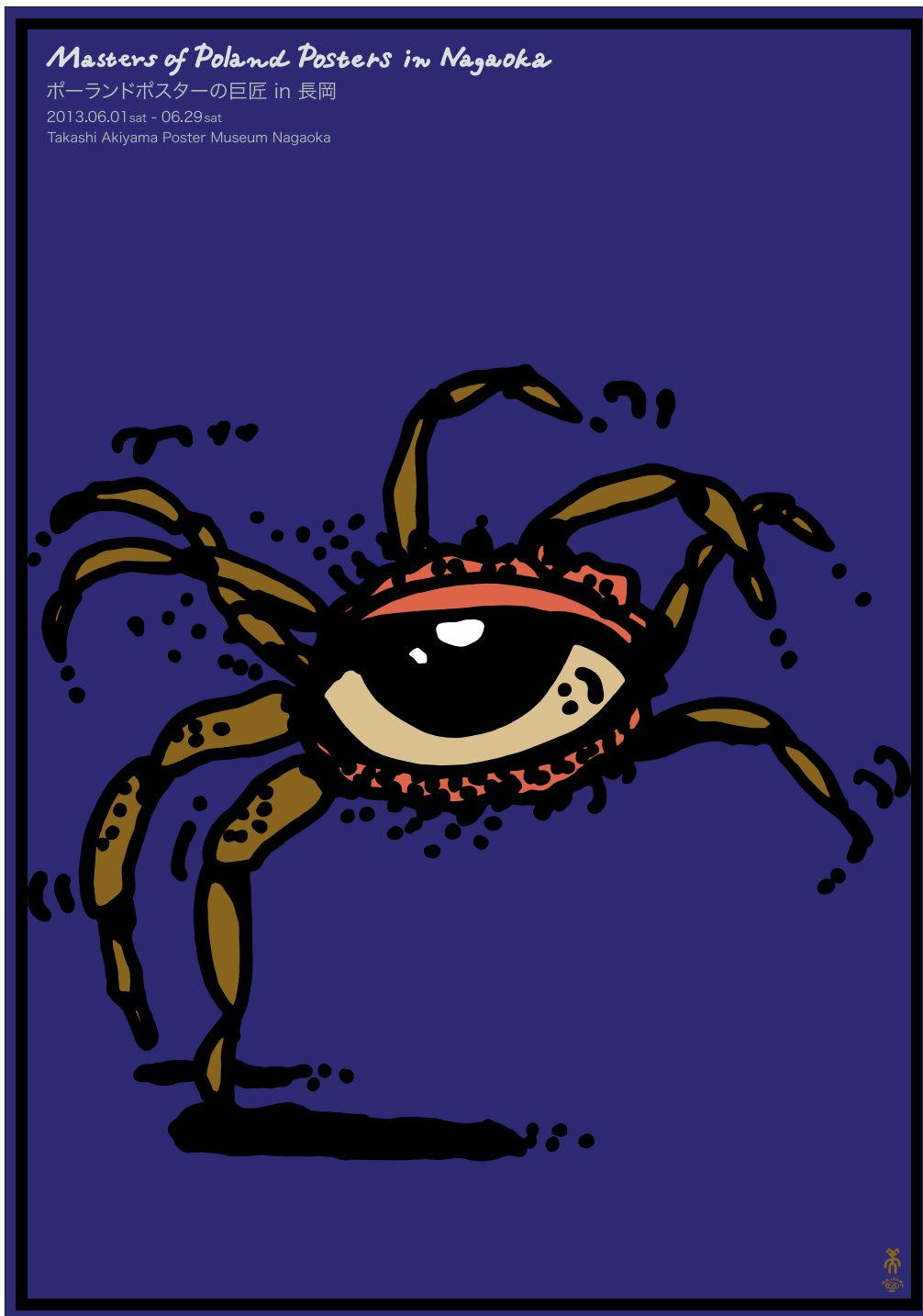
[Title] ----- 「K11 campus Design Carnival 2013 - Design Education High-end Forum」
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2013
 [Client] ----- K11 ART FOUNDATION、北京・清華大学美術学院
 [Category] ----- Education, Culture

[Idea] ----- 2013年6月9日に、北京・清華大学美術学院で「K11 Campus Design Carnival 2013- Design Education High-end Forum」の教育イベントが開催された。精華大学美術学院の馬教授の挨拶から始まり、中国、韓国、日本の、東アジアのデザイン教育に関わる5名の教授によるプレゼンテーションの後、質疑応答が行われた。ぼくは、「デザインと芸術の力」と題し、国際的な活動となった「デザイナーが何を出来るか」というキーワードの地震支援プロジェクト教育の広がり、ポスターの力について講義をした。イベントポスターのデザインは、一艘の船の天空に自在に飛翔する神獣・靈獣である龍の出現をテーマとし、祝いの意味を込めた。



[Title] ----- メッセージイラストレーションポスター「声なき声を聞く」
秋山孝ポスター展5
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2013
[Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 「声なき声を聞く」秋山孝ポスター展5は、2013年7月6日から9月23日までAPMで行なわれた。ポスターを見る時にポスターの中にあるメッセージを読み取り、「声なき声を聞く」感覚が重要だ。今回の企画は、そこに焦点を当てた。ポスターは街の中に貼られたり至る所に登場するが、ポスター展示状況が決してよいとは限らない。展示が終われば、ほとんどのポスターは焼却され、ゴミ箱の中に捨てられるのが現実だ。しかし今になって、貴重な視覚芸術として美術館にコレクションされるようになった。今回のポスターデザインは、何も語らない岩石があるとき囁いてくるような錯覚にとらわれ、「声なき声」が聞こえてくる。誰もが感じるところだ。



[Title] ----- ポーランドポスターの巨匠 in 長岡
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2013
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡
 [Category] ----- Culture

[Idea] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡の企画展の中には、ポスター研究、アーカイブ、教育、これが必ず組み込まれている。今回はポーランドポスターの中で、演劇、映画、美術、サーカスなどの催事の告知ポスターをとりあげた。また人間の内面性を刺激する表現を全面に打ち出したもので、悲しみ、苦しみ、裏切り、嫉妬、嘲り、風刺などの 深層心理に入り込む文学的な内容で、資本主義国の消費社会を促すためのポスターでない。しかしこれらのポスターに驚嘆の眼を見張ったのは、資本主義国のデザイナーたちであった。より芸術的な表現の深さを感じられるポスターだったのである。ポスターのアイデアは、カフカの「変身」をイメージする内容を描いた。

自画像-1 Self-portrait-1 / Dessin
GD Presentation Gallery / Tama Art University
2013-4-15 Mon - 5-9 Thu



[Title] ----- 自画像-1 Self Portrait-1 / Dessin
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2013
[Client] ----- 多摩美術大学デザインプロジェクト
[Category] ----- Education

[Idea] ----- 2013年4月15日から5月9日まで多摩美術大学のGDプレゼンテーションギャラリーで行なった、「自画像」(1,2年生)の展覧会である。自画像は単に自分の姿を映し出すだけでなく、自分の内面と対話することも重要で、自分の生命の証のようなものである。学生たちはこれらの課題に没頭し、基礎である課題から表現の価値を自ら獲得し、未来に向けての指針を見つけ出そうとしている。学生たちの研究コメントをみると、アーティストの研究をくまなくするが、時代背景、作品の特徴、表現技法なども理解を深めるために努力をしていることがわかる。今回のポスターのデザインは、作られた猿の雅楽面の表情から自画像へと結びつけ、ユーモラスなイメージを表現した。



[Title] ----- 秋山孝が選んだ30の金言 高田清太郎の建築デザイン哲学展
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2013
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡
 [Category] ----- Culture

[Idea] ----- 2013年4月20日から5月25日の間、秋山孝ポスター美術館長岡で開催された。ほくが高田清太郎氏のブログから30の金言を選んだ。その金言からポスターを制作し、金言と画像のポスターの展示となった。一般的には建築家の展示は模型であったり図面であったりするが、今回の展示会は「高田清太郎の建築デザイン哲学」を導きだすようにしているため、建築物の写真などがさほど多くはない。それよりも、言葉と響き合うようにするため、自然や原点となる写真を選んだ。その選び方は、1.建築、2.建築と雪、3.人生、となっている。ポスターデザインは、モーゼの十戒からアレンジし、天から降りてくるような金言のイメージを作り上げた。



秋山孝著「イラストレーションスタディーズ」 玄光社／2013年10月25日 発行

読書

にいがたの 一冊

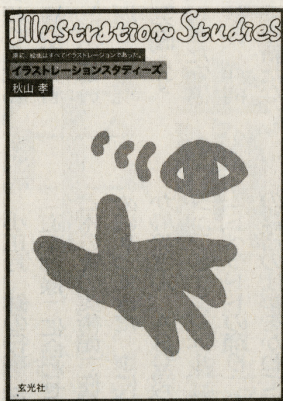
私はこの本の著者、長岡市出身の秋山孝が大好きである。彼はデザイナーとして、イラストレーターとして、作品を通して見られるように、信念が明快であるからである。

秋山 孝著

よう。「反戦」「地球環境問題」「自然災害」「エイズ撲滅」などへの呼びかけの数々。それらの作品から発せられるメッセージに、感動と感銘を受けない人はいない。それが広く国際コンク

ルの場や数多くの賞を通してのメッセージだから、世界中の人たちの心に深く刻まれ、70億の人の心を打ち続けている。

イラストレーションスタディーズ



「デザインは世界の共通言語だと私は考えている。まさにこの考え方に真正面

イラストレーションスタディーズ

ジョンを読む。じっくりと眺めてみると、驚きとため息が出るだろう(中略)と、氏は序

母校の多摩美術大(その後、東京芸大大学院修了)での後輩指導と同時に始めたイラストレーション学の研究とその体系作りへの挑戦。デザイン学という世界の体系はまだできていないと言えないが、「目に見えるものを目に見えるようにする。イラストレ

ードが謳いあげられている。第5章で紹介されている世界各国のエピソードや独特の歴史展開は、一般的な美術史を通して語られる世界とは違った視点で語りかけてくれる。将来のことを

文の中で語りかけていることでも理解できると思う。第1章の「イラストレーション学がなぜ必要なのか」で触れている、第16回(1998年)と第17回のワルシャワ国際ポスタービエンナーレで、世界各国の代表的な作家に質問した「イラストレーションとは何か」の記載に注目したい。そこには、コミュニケーションというキー

から取り組み、歩み続けてきた秋山孝は、作家であり研究者の第一人者だからである。

考えると、表現のための実技と理解の両論を備えもつ人材を送出しないと社会とのつながりができづらいと。

視覚化の体系構築に挑む

それは作家と研究者という二つの柱が一本の軸になり、大樹としてまとめられているからである。秋山孝の人生の美学として受けとめるべきだと思う。

豊口 協
(長岡造形大理事長)
■ 玄光社・3150円

人生の総まとめとしてのこの本は、あくまでも現場主義にもとづいた明確な論旨でまとめられている。プロが読んでも学生や一般人の人が手にしても、イラストレーションの世界がこれほど楽しく理解できるものは今までになかったように思う。



秋山孝著『Illustration Studies』の出版を祝う会 2014年3月9日／自由学園 明日館



2014年「秋山孝ポスター美術館長岡」企画展・美術館大学のご案内

- 第16回企画展「宮内・摂田屋百景展」/4月19日(土)~6月30日(月)
 - ・第23回美術館大学「『宮内・摂田屋百景』について1」
 - 講師：御法川哲郎、大町駿介、たかだみつみ、秋山孝/4月19日(土) pm3:00~4:30
 - ・第24回美術館大学「『宮内・摂田屋百景』について2」
 - 講師：大町駿介、高田清太郎、秋山孝/5月31日(土) pm3:00~4:30
- 第17回企画展「秋山孝ポスター展6」/7月13日(日)~9月22日(月)
 - ・第25回美術館大学/8月5日(火) pm3:00~4:30
- 第18回企画展「メッセージイラストレーションポスター展6」/10月4日(土)~10月31日(金)
 - ・第26回美術館大学/10月4日(土) pm3:00~4:30

- ・開館時間：午前11時~午後5時まで(入館は閉館の30分前まで)
- ・休館日：火曜日
- ・開館期間：4月~10月/閉館期間：11月~3月
- ・入館料：無料

APM13
Poster-5 2014-2013 Takashi Akiyama

発行日：2014年4月1日
 発行者：秋山孝
 発行所：秋山孝ポスター美術館長岡
 〒940-1106 新潟県長岡市宮内 2-10-8
 Tel,Fax：0258-39-1233
 E-mail：info@apm-nagaoka.com
 URL：http://apm-nagaoka.com

編集/デザイン：秋山孝/高橋庸平
 印刷所：東銀座印刷出版株式会社
 ※無断で複写、複製および使用を禁ず。

・中綴じ製本/A4(天地297×左右210mm)
 ・表紙・本文：OKプラスター7C菊Y93.5

APM13
Poster-5 2014-2013 Takashi Akiyama

Date of issue：2014.04.01
 Publisher：Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka
 2-10-8 Miyauchi Nagaoka-city Niigata 940-1106 Japan
 Tel,Fax：0258-39-1233
 E-mail：info@apm-nagaoka.com
 URL：http://apm-nagaoka.com
 Edit / Design：Takashi Akiyama / Yohei Takahashi
 Printed in Higashi-Ginza Insatsu-Shuppan Inc.

© 2014 Takashi Akiyama, Published in Japan by Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka.

All right reserved.No part of this book may be reproduced in any form or by any means, electronic or mechanical,including photocopying or recording, or by any information storage and system,without permission in writing from the publisher.

